

あいコープ共生会 2022 年度活動方針 （2022 年 2 月 25 日 総会で承認）

①あいコープとの交流・仲間づくり

- ★コロナ禍が続く中でも可能なあいコープ組合員との交流や共生会会員間の交流の在り方を模索します。対面・オンラインに関わらず交流の活動量を増やし、生産者と組合員、生産者同士の絆を結び直します。あいコープ以外の生協との事例も含めて成功事例を会員相互に発信しあい、水平展開に取り組みます。みやぎの Wa!わぁ祭り、ふくしまのあいコープ祭りに協賛し、参加します。
- ★生協組合員と積極的に交流し、あいコープ組合員に供給している商品の優位性と、生産者・供給者としての自らの想い、姿勢をより深く伝え、あいコープの仲間の輪を広げます。
- ★生協との交流の中であいコープの事業と運動への理解を深め、共に担います。あいコープみやぎの策定する 2025 年ビジョンの中で、生産者・事業者として共に取り組める課題を積極的に見出し、共に推進します。
- ★生協組合員に分かりやすく伝えるスキルの向上に努めます。
- ★生協の職員育成活動に協力します。
- ★動画やオンライン企画によるあいコープ組合員への情報発信と交流活動に取り組みます。また、SNS を活用して会員、あいコープ組合員との共生会活動の共有を図ります。

②共同研究

- ★農法研究会の活動をすすめ、有機農産物、農薬不使用作物の安定供給・生産増に取り組みます。
- ★あいコープ組合員に農法研究会の活動成果を知らせる広報活動をオンラインも含めて強化します。
- ★気候変動、資源・エネルギー問題、グローバリズムによる圧力、人口減少、格差拡大など厳しい状況の中で事業を担う生産者・生協職員・組合員の研鑽と交流の場を企画していきます。
- ★あいコープと生産者が協同して行う商品検査や食味検査を助成します。
- ★水産関連会員の交流企画に取り組み、組合員も参加する水産を中心とした学習と交流の場を作ります。

③商品作りと利用促進

- ★あいコープ商品あいコープ組合員のニーズに応える商品の提案、開発、供給を進めます。
- ★まんま通信の紙面充実に協力します。
- ★これからのあいコープ組合員のニーズに応えていける商品提案のために会員間の学び合いの場を企画します。
- ★NPO とうほく食育実践協会の食育事業に協賛します。

④品質管理・生産技術の向上

- ★食の自給と安全を事業活動の中で追求します。
- ★遺伝子組み換え技術・ゲノム編集技術の食への応用反対し、GMO フリーゾーンの拡大に取り組みます。ゲノム編集トマトの苗の配布に反対します。

- ★原材料のトレーサビリティの徹底に努力し、N o n－GMO食品を求める組合員に応えます。
- ★会員間の地域循環の取組みを進めます。
- ★HACCP、GAP の導入を進め、品質管理の強化に取り組みます。一般衛生管理の向上に努めます。

⑤石けん運動・環境保全

- ★水環境を守る石けん運動に取り組みます。2023 年宮城県で開催されるシャボン玉フォーラムに協力・参加します。
- ★あいコープみやぎ2025年ビジョンで掲げられた脱プラスチックなどの環境保全活動に自らの生産や事業の中での取組みを、会員間で情報交換しながら追求します。

⑥脱原発の取組み

- ★東京電力福島第一原発事故は終わっていません。新たな環境汚染、被ばくによる健康被害のない廃炉作業を求めます。放射能を含んだ「処理水」の海洋放出・大気放出に反対します。
- ★脱原発を目指します。女川原発の再稼働に反対します。
- ★環境中に大量の放射能を放出する六ヶ所核燃料再処理工場本格稼働に反対します。
- ★再生可能エネルギーの利用拡大に努めます。

⑦被災者支援と地域福祉

- ★2011 年東日本大震災と原発事故によって被災者、被災地が直面する困難は続いています。問題を風化させず、自らの事業を通してあいコープが取り組む被災者支援、地域福祉活動に協力していきます。
- ★自然災害の激甚化は今後も繰り返すことが予想されます。今後の会員間のささえあいとしてあいコープ共生会自然災害基金の醸成を続けます。

2022 年度・2023 年度役員

幹事

細谷滋紀	七郷クローバーズファーム（農産）	会長
阿部寿一	丸壽阿部商店（水産）	副会長
大須賀裕	花兄園（畜産）	
伊藤洋平	天童果実同志会（農産）	
鎌田常太郎	鎌田醤油（加工）	
櫻田真悦	パン工房わ・は・わ（加工）	
島香友一	丸友しまか	
菅原達徳	はさま自然村（農産）	
高橋利彰	高橋徳治商店（水産加工）	
西塚忠樹	大郷グリーンファーマーズ（農産）	
長谷部幸子	グリーンネットワーク（保険）	

監査役

青木純	青木商店
菅野浩幸	菅野食品